

2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年11月14日

上場会社名 株式会社グラッドキューブ 上場取引所 東

コード番号 9561 URL https://corp.glad-cube.com/

代表者 (役職名)代表取締役 CEO (氏名)金島 弘樹

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 財部 友希 (TEL) 06-6105-0315

配当支払開始予定日 – 決算補足説明資料作成の有無:有 決算説明会開催の有無:無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第3四半期の業績(2025年1月1日~2025年9月30日)

(1)経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第3四半期	1, 282	10.8	△58	_	△62	_	△63	-
2024年12月期第3四半期	1, 157	10. 2	△183	_	△188	_	△144	_

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△7. 58	_
2024年12月期第3四半期	△17. 58	-

⁽注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失である ため、記載をしておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第3四半期	2, 180	688	31. 6
2024年12月期	2, 570	750	29. 2

(参考) 自己資本 2025年12月期第3四半期 688百万円 2024年12月期 750百万円

2. 配当の状況

	年間配当金								
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計				
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭				
2024年12月期	_	0.00	_	0.00	0.00				
2025年12月期	_	0.00	_						
2025年12月期 (予想)				0.00	0.00				

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無:無

3. 2025年12月期の業績予想(2025年1月1日~2025年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上	品	営業和	益	経常和	引益	当期純	利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	1, 791	14. 9	△47	_	△61	-	△62	_	△7.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用:無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
①以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 :無

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2025年12月期3Q	8, 432, 940株	2024年12月期	8, 327, 640株
2025年12月期3Q	32株	2024年12月期	32株
2025年12月期3Q	8, 413, 300株	2024年12月期3Q	8, 216, 466株

- ※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー:無
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.経営成績等の概況(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1)当第3四半期の経営成績の概況	2
(2)当第3四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1)四半期貸借対照表	4
(2)四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当第3四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調を維持したものの、依然として不透明な外部環境に直面しております。世界的なインフレ圧力の継続や、米国をはじめとする主要国の金融政策の影響、地政学的リスクの高まりなどが企業活動に影響を及ぼし、為替の変動や資材価格の上昇などによるコスト増が懸念される状況となりました。一方で、国内では観光需要の回復や設備投資の再開、デジタル化・DX推進の加速などが経済活動を下支えし、一定の成長が見られました。

当社が主たる事業領域とする国内インターネット広告市場の2024年の市場規模は、動画広告市場の拡大などにより堅調に伸長し、前年比9.6%増の3.6兆円と3年連続で過去最高を更新しております。(出典:株式会社電通「2024年日本の広告費」)。また、世界的な広告成長率は4.9%と世界経済成長率の2.8%を上回る成長率となる見込みであり、その主要因はデジタル広告であることから(出典:株式会社電通グループ「2025年世界広告費成長率予測(更新版)」、今後もインターネット広告市場は拡大傾向にあると予想されます。

また、国内SaaS市場においては、日本企業を取り巻く課題の解決にはデジタル技術の活用が不可欠であるとの認識のもと、生成AIの活用をはじめ、DX(デジタルトランスフォーメーション)投資が旺盛であります(出典:株式会社富士キメラ総研「2025 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編」)。

ITサービス市場においては、生成AIやDXといったデジタル変革が加速する中、企業はITシステムへの投資を積極的に行っています。しかし、システムエンジニアの不足が深刻な課題となっており、この状況はシステム開発を外部に委託する動きを後押しし、今後も委託需要は拡大するものと予想されます。

このような状況下、マーケティングDX事業では、AIを用いたサイト解析ツールなどの機能拡充、動画制作体制の強化、オンラインセミナーの実施、SNSを活用した発信など、拡大を続けるインターネット広告市場と、インターネット利用者のニーズに応えるべくソリューションを提供してまいりました。また、テクノロジー事業では、競馬予想AIのサービス拡大、生成AIを用いたデータ分析やシステム開発及び改修、企画提案型の受託開発など、引き続き、データ解析力と開発力を活かした幅広い事業を展開してまいりました。

この結果、当社の当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高1,282,351千円(前年同期比10.8%増)、営業損失58,820千円(前年同四半期は営業損失183,927千円)、経常損失62,784千円(前年同四半期は経常損失188,994千円)、四半期純損失63,800千円(前年同四半期は四半期は四半期純損失144,407千円)となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお、第1四半期会計期間より報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しており、前年同四半期との比較・分析については、当該変更を反映させた金額を用いております。

① マーケティングDX事業

当事業における取り組みとして、ネット広告事業につきましては、前事業年度から引き続き、営業体制の強化による既存顧客からの継続的な発注依頼、協業パートナー企業からの案件受注を推し進めております。業務提携 先企業への人材派遣ではマーケティング支援を行いながら広告案件依頼に繋げる取り組みができており、広告案件の受注に繋がっております。引き続き動画広告とSNS運用との相乗効果を図ってまいります。

また、SaaS事業につきましては、SiTestの新機能である「SiTest AI診断(eta版)」の提供を開始いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,097,394千円(前年同期比12.9%増)、セグメント利益は378,500千円(前年同期比9.1%減)となりました。

② テクノロジー事業

当事業における取り組みとして、SPAIA事業につきましては、SPAIA競馬では、顧客満足度向上を目的としたシステム開発・改修などのサービス改善施策を実施し会員数増加を図ってまいりました。スポーツメディアプラットフォームのSPAIAでは、スポーツデータセンター「DRAGON DATA CENTER (ドラゴンデータセンター)」で多種多様なプロスポーツ及び海外のスポーツデータも取り入れたことにより、SPAIA全体の会員数は150,437人(前年同期比10.4%増)となりました。

DX開発事業につきましては、上場企業に求められるIR活動及び人事領域の高度化に対するソリューションとして提供開始いたしました「Ava Twin (アバツイン)」についてのサービス領域拡大と知名度向上を図りました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は184,956千円(前年同期比0.0%減)、セグメント損失は246,128千円(前年同四半期は394,742千円のセグメント損失)となりました。

(2) 当第3四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は2,180,383千円となり、前事業年度末に比べ390,527千円減少いたしました。これは主に短期借入金の返済等による現金及び預金の減少423,969千円、売掛金及び契約資産の増加19,315千円によるものであります。

(負債)

負債の残高は1,491,823千円となり、前事業年度末に比べ328,737千円減少いたしました。これは主に短期借入金の減少100,000千円、未払費用の減少47,266千円、長期借入金の減少92,502千円によるものであります。

(純資産)

純資産の残高は688,559千円となり、前事業年度末に比べ61,789千円減少いたしました。これは主に四半期純損失の計上による利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年2月14日の「2024年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

		(単位:十円)
	前事業年度 (2024年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1, 661, 285	1, 237, 31
売掛金及び契約資産	476, 841	496, 15
前渡金	160, 154	143, 38
仕掛品	_	2, 86
その他	71, 991	71, 46
貸倒引当金	△61, 761	△61, 69
流動資産合計	2, 308, 510	1, 889, 48
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	41, 579	41, 5
減価償却累計額	△11,770	$\triangle 15, 43$
建物附属設備(純額)	29, 808	26, 1
工具、器具及び備品	8, 098	8, 1
減価償却累計額	△5, 906	$\triangle 6, 5$
工具、器具及び備品(純額)	2, 191	1,6
有形固定資産合計	32,000	27, 8
無形固定資産		
ソフトウエア	68, 151	58, 8
ソフトウエア仮勘定	634	2, 2
無形固定資産合計	68, 786	61, 1
投資その他の資産		
投資有価証券	84, 085	81, 8
破産更生債権等	363	3
長期前払費用	1, 427	1, 0
その他	73, 409	118, 3
貸倒引当金	△363	△3
投資その他の資産合計	158, 922	201, 2
固定資産合計	259, 708	290, 1
繰延資産		<u> </u>
株式交付費	1, 641	
社債発行費	1, 048	6
繰延資産合計	2,690	7
資産合計	2, 570, 910	2, 180, 3
2 v = 0 F1	2, 0.0, 010	2, 100, 00

		(単位:千円)
	前事業年度 (2024年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	407, 830	398, 880
短期借入金	100,000	_
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	232, 917	248, 612
未払金	108, 933	72, 342
未払費用	146, 300	99, 033
未払法人税等	_	3, 962
未払消費税等	48, 424	44, 028
契約負債	153, 319	127, 048
その他	27, 495	35, 076
流動負債合計	1, 265, 220	1, 068, 984
固定負債		
社債	60,000	20,000
長期借入金	495, 341	402, 839
固定負債合計	555, 341	422, 839
負債合計	1, 820, 561	1, 491, 823
純資産の部		
株主資本		
資本金	371, 751	372, 807
資本剰余金	361, 556	362, 512
利益剰余金	17, 072	$\triangle 46,728$
自己株式	△32	$\triangle 32$
株主資本合計	750, 348	688, 559
純資産合計	750, 348	688, 559
負債純資産合計	2, 570, 910	2, 180, 383

(2) 四半期損益計算書 第3四半期累計期間

(単位:千円)

		(単位:十円)
	前第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	1, 157, 052	1, 282, 351
売上原価	218, 759	387, 191
売上総利益	938, 292	895, 159
販売費及び一般管理費	1, 122, 220	953, 980
営業損失 (△)	△183, 927	△58,820
営業外収益		
受取利息	195	2,036
受取手数料	3, 090	2,882
債務勘定整理益	901	2,008
その他	758	583
営業外収益合計	4, 946	7, 510
営業外費用		
支払利息	4, 586	6, 658
その他	5, 426	4, 816
営業外費用合計	10, 013	11, 474
経常損失 (△)	△188, 994	△62, 784
特別利益		
新株予約権戻入益	560	_
特別利益合計	560	_
特別損失		
固定資産除却損	669	264
その他		39
特別損失合計	669	303
税引前四半期純損失(△)	△189, 104	△63, 088
法人税、住民税及び事業税	909	712
法人税等調整額	△45, 606	
法人税等合計	△44, 696	712
四半期純損失 (△)	△144, 407	△63, 800

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

		報告セグメント	细軟質	四半期損益	
	マーケティング DX事業	テクノロジー 事業	計	調整額 (注 1)	計算書計上額 (注2)
売上高					
顧客との契約から生じる収益	972, 058	184, 993	1, 157, 052	_	1, 157, 052
その他の収益	_	_	_	_	_
外部顧客への売上高	972, 058	184, 993	1, 157, 052	_	1, 157, 052
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_		_	-	_
11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-	972, 058	184, 993	1, 157, 052		1, 157, 052
セグメント利益又は損失 (△)	416, 545	△394, 742	21, 803	△205, 731	△183, 927

- (注) 1. セグメント利益又は損失 (\triangle) の調整額 \triangle 205,731千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。
 - 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

		報告セグメント	調整額	四半期損益	
	マーケティング DX事業	テクノロジー 事業	計	調整額 (注1)	計算書計上額 (注2)
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1, 097, 394	184, 956	1, 282, 351	_	1, 282, 351
その他の収益	_	_	_	_	_
外部顧客への売上高	1, 097, 394	184, 956	1, 282, 351	_	1, 282, 351
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_	l	_		_
# <u>+</u>	1, 097, 394	184, 956	1, 282, 351	_	1, 282, 351
セグメント利益又は損失(△)	378, 500	△246, 128	132, 372	△191, 192	△58, 820

- (注) 1. セグメント利益又は損失 (\triangle) の調整額 \triangle 191,192千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。
 - 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。
- 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

第1四半期会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるために、一部の販売費及び一般管理費の配賦方法を見直し、報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更を行っております。なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の測定方法に基づき作成したものを開示しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	23,793千円	19,765千円
のれんの償却額	38,910千円	一 千円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。